

葵 AOI

No.134

令和7年 春

徳川美術館

THE TOKUGAWA ART MUSEUM



国宝 初音の 調度

特別展

P2~3

展覧会紹介

P4

「千代姫の
華麗なる生涯」展

エッセイ

P5

太宰府の新春を彩る 国宝「初音の調度」

研究ノート

P6

重要文化財 「長生殿蒔絵手箱」を見つめ直す

P7

徳川美術館 リニューアル事業のご報告 / 令和6年度 ご寄贈品の紹介 / 令和6年度 修復事業の報告

P8

展覧会情報 時をかける名刀 / 令和7年度展覧会スケジュール

特別展 国宝 初音の調度

徳川美術館は、源氏物語を題材にした国宝の名品を2件所蔵しています。1つは、国宝「源氏物語絵巻」です。平安時代に製作された現存最古の物語絵巻として唯一無二の絵画作品です。もう1つは、国宝「初音の調度」です。「初音」・「胡蝶」帖を蒔絵でデザインした漆工品が中心を占める、黄金に輝く名品です。源氏物語を表した絵画作品の最高峰が国宝「源氏物語絵巻」とすれば、工芸作品の最高峰が国宝「初音の調度」だと言っても過言ではないでしょう。

ところで、正式な国宝としての指定名称は「婚礼調度類（徳川光友夫人千代姫所用）」と言いますが、ここでは長年親しまれ耳慣れた「初音の調度」と呼びたいと思います。「初音の調度」は指定名称の通り、全て千代姫（1637～98）という女性のために詠えられた婚礼調度品です。千代姫は、3代将軍徳川家光の長女で、寛永16年（1639）、尾張家2代光友に嫁ぎました。長らく子どもに恵まれなかった家光にとって待望の長女で、千代姫の婚礼は、跡継ぎの男子誕生をも期待された、幕府の最重要な出来事でした。その際に詠えられた「初音の調度」は、最高峰の素材・技術を結集させ、幕府の威信をかけて実施された一大プロジェクトと言えるでしょう。

「初音の調度」には漆工品や染織品、金工品などが含まれており、全70件が現在にまで伝わっています。その中心となる漆工品には「初音」帖を題材にした「初音蒔絵調度」が47件、「胡蝶」帖を題材にした「胡蝶蒔絵調度」が10件あります。展覧会をご覧になる前の予習として、ここでは「初音の調度」のうち、「初音蒔絵調度」・「胡蝶蒔絵調度」のすばらしさについて紹介したいと思います。



国宝 初音蒔絵貝桶
江戸時代 寛永16年（1639） 霊仙院千代姫（尾張家2代光友正室）所用 徳川美術館蔵

①明確な製作年代・製作期間

漆工品はほとんどの場合、銘が入っておらず、作者や製作年代がわからないことが多くあります。しかし、「初音蒔絵調度」・「胡蝶蒔絵調度」は寛永14年（1637）に幕府から製作を命じられ、3年目に仕立て上げたとの記録が残っており、寛永16年に完成したことが明確にわかります。漆は固まるのに時間もかかり、大量に生産することが困難です。膨大な数の調度品をわずか2年半という短い期間に完成させているため、蒔絵師総出で製作にあたったと想像できます。

②間違いのない製作者

記録によると、製作者は蒔絵師・幸阿弥長重（こうあみ ちやうじゆう）であると伝わっています。もちろん長重一人が製作したわけではありません。当時は分業体制が基本です。蒔絵の作品一つを製作するにも、蒔絵を施す職人はも



国宝 初音蒔絵文台・硯箱
江戸時代 寛永16年（1639） 霊仙院千代姫（尾張家2代光友正室）所用 徳川美術館蔵

ちろん、^{きじ}木地や^{ちようきん}金粉の製作をする職人、彫金をする職人あるいは筆や刷毛などの道具を製作する職人、^{はけ}漆掻きなど多様な人々がかかわります。多様な職人がかかわりながらも、「初音」・「胡蝶」帖の統一された意匠で、完成度の高い作品を製作するには、このプロジェクト全体を統括する人が必要になります。こうした人々を一手に取りまとめたのが、まさに長重であり、いわば名プロデューサーと言えます。



国宝 初音蒔絵大角赤手箱 江戸時代 寛永16年(1639)
霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用 徳川美術館蔵

③惜しみなく使われた金銀

見ての通り、「初音蒔絵調度」・「胡蝶蒔絵調度」は金粉や銀粉、純金のウグイス、銀製の金具など、目に入る全てが金銀で埋め尽くされています。幕府の威信をかけた一大プロジェクトとして、「將軍家の姫君」である千代姫のために詔えられた婚礼調度には、やはり最高級の素材を用いたのでしょう。また幕府にもこれだけの財力と権力を注げる力があつたのだとわかります。

④多種多様な蒔絵技法

蒔絵は、漆で絵を描いた上に金銀粉を蒔いて製作します。「初音の調度」には、^{とぎだし}研出蒔絵・^{ひら}平蒔絵・^{たか}高蒔絵を基本とし、^{つけがき}付描・^{かきわり}描割・^{きりかね}切金・^{かなが}金具など蒔絵作品に見られるほぼ全ての技法が含まれているといっても過言ではありません。また各技法は単体で用いるのではなく、効果的かつ複雑に組み合わせられており、職人の高度な技術を物語ります。



国宝 宇治香箱
江戸時代 寛永16年(1639) 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用 徳川美術館蔵

⑤内部構造の木材までが上質

「初音蒔絵調度」・「胡蝶蒔絵調度」の贅沢さは、表面に留まりません。CTスキャンで内部構造を調査したところ、木目が密に詰まった非常に上質な木材を使用していることがわかりました。なおかつ unnecessary 木組みや釘は用いず、シンプルに木材を組み合わせた構造をしています。このようなことができるのは木材が上質であるからこそであり、約400年にわたり、ほとんど割れたり歪んだりすることなく、つい最近製作したのかと思われんばかりに、綺麗に残った理由の一つでもあります。

前回、国宝「初音の調度」が一斉に公開されたのは、10年前の平成27年(2015)です。当時私は「初音の調度」とは無縁の人生を歩んでいました。今回、本館展示室が「初音の調度」で満たされます。そのような贅沢な空間を、初めて目の当たりにできることを展覧会担当者としても楽しみにしています。

(学芸員 板谷寿美)



国宝 胡蝶蒔絵枕香炉
江戸時代 寛永16年(1639)
霊仙院千代姫
(尾張家2代光友正室)所用
徳川美術館蔵

展覧会紹介 企画展

千代姫の華麗なる生涯

国宝「初音の調度」の持ち主であった千代姫(1637～98)は、わずか3歳(満2歳6か月)で徳川将軍家から尾張徳川家(以下、「尾張家」と略称)に嫁いできました。この年齢での結婚は、現代では考えられないことですが、その生涯とはいかなるものだったのでしょうか。

寛永14年(1637)、千代姫は3代将軍家光の待望の子として江戸城に誕生しました。家光が生まれながらの将軍とすれば、千代姫もまた生まれながらの将軍姫君でした。しかし、千代姫の誕生当時、家光は病弱で、継嗣問題は深刻であったため、翌年には早くも尾張家初代義直の世継ぎである光友との縁組が行われました。当時、有力な将軍候補であった光友に千代姫を嫁がせることで、家光の血筋を守り、幕府権力の強化を図ったと考えられています。翌々年の寛永16年、千代姫は尾張家へと嫁ぎ、このとき将軍家の威信を示すべく用意されたのが、絢爛豪華な婚礼調度「初音の調度」です。当初、用意された嫁入り道具は膨大であったとみられ、江戸時代に名古屋城で保管されてきた金銀の調度類(重要文化財)も、その一部と考えられています。燦然と輝く金銀の調度に、華々しい婚礼の一端がうかがわれます。

夫の光友は、千代姫より12歳年上で、文武両道に優れた偉丈夫でした。結婚から2年後、寛永18年に将軍家に家綱が誕生したため、光友の将軍就任の可能性はなくなりましたが、千代姫を嫁に迎えたことで、尾張家は将軍家との強力なパイプを得ることとなります。

光友との間に2男2女をもうけた千代姫は、江戸城に登城する際に、たびたび自身の子を伴い、将軍や御台所^{みだいどころ}に対面させ、昇進や縁組、屋敷地拝領など尾張家に有利となるよう働きかけました。長男綱誠^{つななり}が尾張家3代となり次男義行^{よしゆき}が分家の高須松平家を創設しただけでなく、光友の側室が産んだ3男義昌^{よしまさ}と10男友著^{ともあき}の養母となり、将軍にお目見えさせ、梁川松平家・川田久保松平家という分家の創設へと繋げました。



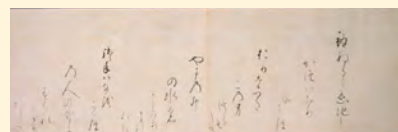
金唐革鏡覆 ハンス ル・メール作
霊仙院千代姫所用
オランダ 17世紀



重要文化財 純金香盆飾り
霊仙院千代姫所用
江戸時代 寛永16年(1639)



薄紅地蓬萊葵紋付産衣
徳川綱誠(尾張家3代)産着
江戸時代 承応元年(1652)



源氏物語拔書 霊仙院千代姫筆 江戸時代 17世紀

尾張家の分家はすべて千代姫の実子と養子に端を発しており、千代姫は尾張家繁栄の基礎を築いたといえます。

3歳で嫁いだ千代姫は62歳で亡くなるまで夫や息子たちからも「姫君様」と呼ばれ、常に嫁としての立場よりも、将軍姫君としての立場が優先されました。幕府からは毎年5千両もの生活費が支給され、尾張家の上屋敷内に設けられた御守殿^{ごしゅでん}とよばれる姫君専用の御殿で将軍家から派遣された役人と女中たちに囲まれて、江戸で生涯を送りました。慶安4年(1651)に父家光が歿した後も、千代姫は4代家綱・5代綱吉と2代にわたる将軍の姉として権勢を揮う一方で、尾張家の財政難には、自身の備えから金5千両を貸し出して藩財政を支えたことがわかっています。

千代姫が筆を執った「源氏物語拔書」は、流麗かつ品格のある筆跡で、将軍姫君にふさわしい高い教養と矜持を感じさせます。また「初音の調度」や金銀調度類のみならず、「真珠貝玉箱^{かいたまばこ}」や「金唐革鏡覆^{きんからかわかがみおおい}」など、千代姫の遺愛品には舶来品も含まれ、当時最高峰を極めた豪華な暮らしぶりがうかがえます。

「初音の調度」一斉公開にあわせ、名実ともに将軍姫君としてその生涯を華やかに生き抜いた千代姫に思いを馳せる機会となれば幸いです。

(学芸部長代理 吉川 美穂)

エッセイ

太宰府の新春を彩る 国宝「初音の調度」

毎年、九州国立博物館では、お正月に新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」を開催させていただいています。この新春特別公開は、2009年から続けて開催しているもので、「初音の調度」「胡蝶の調度」から2～3件ずつお借りして展示しています。新春の太宰府を華やかに彩る人気の企画で、毎回、熱心にご覧になれるリピーターの方も多くいらっしゃいます。

ご存知のとおり、「初音の調度」は、寛永16年(1639)、徳川3代将軍家光の長女千代姫が、尾張徳川家2代の光友に嫁ぐ際に調えられた婚礼調度です。文様の主題である『源氏物語』「初音」帖では、光源氏が年賀のため六条院を訪れる場面が描かれます。金の高時絵をはじめ^{つけがき きりかね}付描、切金など入念な技巧を尽くして描かれた新春の六条院の情景は、見る人の心を晴れやかな美しさで満たしてくれるようです。

「胡蝶の調度」の画面には描かれていませんが、太宰府の人々にとっては「胡蝶」帖に登場する玉鬘^{たまかづら}も親しみがわく存在です。玉鬘は母である夕顔の死後、乳母一家に伴われて筑紫へ下向しますが、その乳母の夫が大宰少式なのです。玉鬘が子供時代を過ごしたのは太宰府政庁の周辺であつたろうと思われ、そのあたりを歩いていると、美しく聡明な玉鬘の姿をつい想像してしまいます。

九博での約ひと月の展示の間には、X線CT調査も行っています。近年では文化財用のCTスキャナを備えている博物館も増えてきましたが、九博は2005年の開館に合わせていち早くCTを設置し、彫刻や工芸品をはじめとする立体文化財の内部構造調査を進めてきました。

「初音の調度」も継続的に調査を行い、いまでは

九州国立博物館
学芸部企画課特別展室長

かわ ばた のり こ
川畑 憲子



福岡県生まれ。専門は漆工史。2007年より九州国立博物館に勤務。毎年、新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」を担当している。おもな担当展覧会に「彫漆 漆に刻む文様の美」(2011年)、「江戸の粋・印籠—フィナンランド・コレクション」(2012年)、「きらめきで飾る—螺鈿の美をあつめて」(2016年)、「よみがえる正倉院宝物 再現模造に見る天平の技」(2021年)など。

30点を超える作品の調査が完了しています。CT調査では、外からは見ることのできない木地構造などを知ることができるため、CTにより得られたデータは江戸時代の漆芸技法の研究や修理の現場で大いに生かされています。

この度の徳川美術館開館90周年を記念した特別展では、10年ぶりに国宝「初音の調度」全点を一挙に公開されるとともに、これまで九博で実施したCT調査の成果も合わせて紹介されとのこと。「初音の調度」の華麗な世界をご堪能いただくとともに、その製作の内面にも関心を寄せていただければ、さらに奥深い魅力に触れていただけるだろうと思います。



西鉄福岡駅エスカレーターでのポスター掲示
(2015年1月、田中慶二撮影)



九州国立博物館での展示風景(2024年1月)

重要文化財「長生殿蒔絵手箱」を 見つめ直す

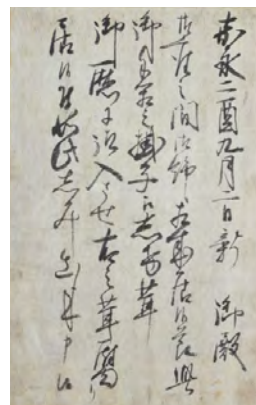
学芸員 板谷 寿美

令和7年(2025)、大阪・関西万博が開催される。時を遡ること125年、明治33年(1900)4月14日から11月12日までパリで万博が開催された。世紀の転換期に開催されたパリ万博は、過去最大の規模で催され、次の世紀を展望する博覧会として大きな意味を持つことはもちろん、日本にとってもまた重要な万博の一つであった。その理由の一つは、パリ万博を契機として、明治33年、日本で初めて日本美術史の書籍が編纂・刊行されたことである。その書籍のタイトルは"Histoire de l'art du Japon (日本美術史)"で、驚くことにフランス語で出版された書籍であった。このフランス語版をもとに日本語訳が刊行されたのは翌年のことで、それが岡倉天心らを中心に帝室博物館(現・東京国立博物館)が編纂し、農商務省が発行した『稿本日本帝国美術略史』である。この書籍には、製作年代順に日本全国の主要な文化財が取り上げられている。その中に現在、徳川美術館が所蔵する「源氏物語絵巻」や「初音蒔絵三棚飾」なども掲載されている。当時、徳川美術館は開館していないので、尾張徳川家18代当主で侯爵の義礼よしあきらの所蔵品として紹介されている。先に挙げた他にも義礼の所蔵品は掲載されており、その一つが現在、重要文化財に指定されている「長生殿蒔絵手箱」である。『和漢朗詠集』所収の慶滋保胤よししげのやすたねの漢詩を文字で配しつつ、春秋の草花や鶴亀が遊ぶ宮殿・長生殿の庭の様子が蒔絵で表された、吉祥性の高い手箱である。『稿本日本帝国美術略史』第2編 第3章「鎌倉幕政時代」第5節「美術的工芸品」の項には次のように記されている。

長生殿裏春秋富、不老門前日月遅の文字を配し、其の詩意を蒔絵せし手筈にして當代(筆者注：鎌倉幕政時代)初期の作なるべく、図様細密にして趣致優美なり。



重要文化財 長生殿蒔絵手箱
鎌倉時代 13～14世紀



長生殿蒔絵手箱 外箱蓋裏の貼紙

この説明ののちに、同時代の名品として現在はいずれも国宝に指定されている「曼荼羅厨子扉」(当麻寺蔵)・「梅蒔絵手箱」(三嶋大社蔵)・「蝶螺鈿蒔絵手箱」(現・荏原 畠山美術館蔵)・「浮線綾螺鈿蒔絵手箱」(現・サントリー美術館蔵)が記されている。鎌倉時代初期を代表する手箱の筆頭として挙げられた「長生殿蒔絵手箱」だが、そもそも"Histoire de l'art du Japon"に掲載されていること自体、ほとんど一般に知られていないように思う。他にも例えば、元来、「長生殿蒔絵手箱」の名称で伝わってきたわけではないこともあまり紹介されていない。江戸時代には「秋野の月蒔絵手箱」という名称で伝わっていた。また、蓋を開けると懸子かけこがあり、その角の1つにはシミがついている。蓋を開けて展示することがあまりないため、目にすることがない人は多いのではないだろうか。このシミの理由は外箱の蓋裏に貼ってある書付により経緯が確認できる。簡潔に言うと、「新御殿の御飾の間に置く際に、椎茸を入れていたら腐ってしまい、シミになった」とのことである。現在では到底考えられない出来事である。このように「長生殿蒔絵手箱」にはまだあまり広く知られていないことがある。

日本初の日本美術史の書籍に所蔵品が名を連ねていることを誇らしく思う一方で、名品とされる所以やどのように名品として語り継がれてきたのか、またこの作品の意義は何か、をきちんと解明することの重要性が改めて身にしみる次第である。

徳川美術館 リニューアル事業のご報告

令和7年度(2025)の開館90周年に合わせて進めておりました、館内の一部施設および公式ホームページのリニューアルが完了いたしましたのでご報告いたします。

装い新たにスタートしております。ぜひこの機会にご来館・ご利用ください。

1. 第6展示室 から情報ラウンジへ

国宝「源氏物語絵巻」のみにとどまらず、当館が所蔵する作品の情報を手持ちのスマートフォンや映像にてご覧いただけるほか、図録なども自由にご覧いただけるスペースが誕生しました。



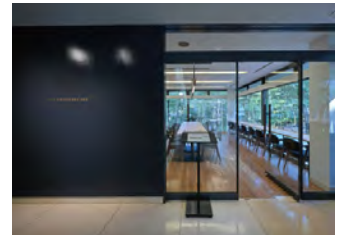
2. ホームページリニューアル

より一層当館を知っていただく手段として、わかりやすさに重点を置きながらも、作品のすばらしさが伝わる写真を多く用いています。



3. 喫茶室 から THE MUSEUM CAFE へ

名称の変更と併せて、内装や食器なども一新しております。洗練された雰囲気の中で、展覧会の余韻をお楽しみいただけます。



令和6年度 寄贈品のご紹介

徳川美術館は文化財保護の趣旨に則って、篤志家からご寄贈いただいた作品の保存・公開・研究に努めています。昨年度は豊島知子氏より森村宜稲作「雛飾り」のご寄贈を受けました。そのほか、各氏より数々の作品をご寄贈いただきました。これらのご寄贈品は順次公開する予定です。



雛飾り 森村宜稲作 豊島知子氏寄贈

令和6年度 修復事業のご報告

国宝「初音の調度」70件のうち「初音蒔絵文台・硯箱」について、国の「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」および愛知県の「文化財保存事業費補助金」、住友財団の「文化財維持・修復事業助成」を受け、令和5年(2023)より2年にわたって行った修理が、令和7年(2025)3月を以て完了いたしました。



修理中の初音蒔絵文台

展覧会情報

時をかける名刀 6.14(土)～9.7(日)

武家にとって至上の宝であった名刀。武器として優れているだけでなく、「戦乱の世に複数の天下人が所持した」、「人生の節目の贈り物とされた」など、時代を経るごとに数々の輝かしい来歴が加わることで、名刀の価値は一層高められていきました。こうして何百年もの間、多くの名刀が人の手から手へと受け継がれ、その格式にふさわしく詠えられた刀装とともに現代まで守り伝えられています。

本展では徳川美術館所蔵の国宝・重要文化財や名物と謳われた品々を軸に、作品にまつわる様々な物語に着目して、名高い武将や大名ゆかりの名刀、そして華麗な刀装を展示します。「本作長義」と「山姥切」を

はじめ、物語によって繋がる刀剣の競演にもご注目いただきつつ、時代を超えてなお魅力の尽きない刀剣・刀装の奥深い世界を、ぜひご堪能ください。



重要文化財 刀 銘 本作長義 天正十八年庚子五月三日ニ九州日向住國廣銘打
長尾新五郎平朝臣顯長所持 天正十四年七月廿一日小田原参府之時從
屋形様被下置也 南北朝時代 14世紀 徳川美術館蔵



重要文化財 刀 銘 九州日向住國廣作 天正十八年庚子式月吉日平顯長 号 山姥切
桃山時代 天正18年(1590) 足利市民文化財団蔵

◇会期中オンライン予約(事前購入)が必要な日程

6月14日・15・21・22・28・29日 7月5日・6・12・13・19・20・21・26・27日

【販売場所】徳川美術館オンラインチケット販売サイト

※徳川美術館メンバーシップ会員様におかれましては、上記日程もオンラインによる事前予約は不要ですが、会員証のご提示が必要です。
尚、入館にあたっては、優先入館ではありません。待機列ができた場合には、お並びいただきます。

※日付指定チケットが必要ではない日程のオンラインチケットの販売開始日は、5月13日(火)午前10時からとなります。



販売サイト

2025年度 展覧会スケジュールのご案内

	2025 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026 1月	2月	3月
本館展示室		4.12(土)～6.8(日) 徳川美術館 開館90周年記念 特別展 国宝 初音の調度		6.14(土)～9.7(日) 徳川美術館・蓬左文庫 開館90周年記念 夏季特別展 時をかける名刀			9.13(土)～11.9(日) 徳川美術館・蓬左文庫 開館90周年記念 秋季特別展 尾張徳川家 名品のすべて		11.15(土)～12.7(日) 徳川美術館開館 90周年記念 特別展 国宝 源氏物語絵巻		2.7(土)～4.5(日) 特別展 尾張 徳川家の 雛まつり	
蓬左文庫展示室		企画展 千代姫の 華麗なる生涯		本作長義×山姥切国広 同時公開企画「伯仲燦然」 6.14(土)～7.27(日)					11.15(土)～12.14(日) 企画展 尾張家臣団	1.4(日)～2.1(日) 企画展 日本の神々 降臨	2.7(土)～4.5(日) 企画展 金沢文庫本 -流離う本の物語-	

葵 徳川美術館 第134号

発行年月日：令和7年4月1日

編集発行：徳川美術館

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

TEL (052) 935-6262

<https://www.tokugawa-art-museum.jp/>

表紙

国宝 初音蒔絵三棚飾り(部分) 江戸時代・寛永16年(1639)
霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用 徳川美術館蔵

ずしだな くろだな しろだな さんだな
厨子棚・黒棚・書棚をまとめて三棚といい、婚礼調度品ではこれらを一揃えとして詠えました。国宝「初音の調度」には、「初音」帖を題材にした厨子棚が1基、黒棚が1基、書棚が2基、「胡蝶」帖を題材にした書棚が1基、計5基の棚が現在まで伝わっています。厨子棚には主に香道具や手箱、黒棚には化粧道具、書棚には書物や文房具などを飾ります。それぞれの調度品が三棚に配された時、集合の美を感じるとともに凛とした空気が漂います。



公益財団法人 徳川黎明会 活動支援基金寄附者名簿

＜令和 7 年 1 月 31 日現在＞

— 法 人 —

宗教法人 高岳院

(社) 茶道裏千家淡交会愛知第二支部

石州流茶道宗家石州会 愛知支部

宗教法人 政秀寺

大雄山 性高院

一般財団法人坂文種報徳会

株式会社名豊本社

株式会社八百彦本店

名古屋徳川ライオンズクラブ

合同会社むらやま

※敬称略・五十音順

◆ 活動支援基金のお願い ◆

寄附金の使途 徳川美術館および徳川林政史研究所の作品購入、収蔵品に関する修理・調査研究・教育普及及環境等の整備拡充など

寄附金額 個人 一口 一万円 法人 一口 十万円 何口でも結構です。
所定の振り込み用紙で郵便局または銀行からお振り込みいただけます。
振込用紙をご希望の方は当館寄附係までご連絡ください。

— 個 人 —

ア	赤堀康彦		岡田健児	ソ	染木知夫		平塚泰三
	秋田節子		緒方嘉隆	タ	高木俊輔		平本裕美子
	浅井みちよ	カ	加藤衛弘		高山慶子		廣瀬千明
	朝岡多磨美		加藤禎男		滝 正	フ	深井雅海
	旭 勝春		金森明子		竹内美智代		深谷比呂美
	麻生由香	キ	貴布根楯雄		田代和生		福澤宏昭
	阿部隆夫		金 リンダ リ		田中 中		伏屋重晴
	雨宮秀樹		清野久美子	チ	千葉晃泰	ホ	堀井邦彦
	有賀和子		清野英彦	ツ	辻 智美		堀井久美子
	安藤浩行	コ	後藤宗理	ト	徳川喜壽	マ	前田種男
イ	飯岡正毅		小林春子		富田和枝		松尾美恵子
	飯島邦彦		小宮山敏和		富田 茂	ミ	水谷鎮夫
	井口正俊		近藤昭彦	ナ	長尾茂行		宮島宏子
	石山秀和	サ	齋藤恵美		長澤大悟		三輪恵子
	伊東與有三		坂本達彦		長澤弘宣	ム	村井俊哉
	岩下哲典		櫻庭茂大		南雲和江		村上賢瑞
ウ	上野秀治		佐々木剛志	ニ	新美達也	モ	持留宗一郎
	内田裕美		佐藤孝之		西尾千歳		森 安彦
オ	大石浩哉	シ	柴田耕志		西 光三	ヤ	柳澤由希
	大石 学		清水恵五		西田佳子		山崎久登
	大崎 晃		白根孝胤		西村敏子		山本英二
	大島真理夫		新崎 鈞	ハ	服部はるみ		
	大野淑子		新崎美至子	ヒ	平田米男		※敬称略・五十音順

◆ 活動支援基金のお願い ◆

寄附金の使途 徳川美術館および徳川林政史研究所の作品購入、収蔵品に関する修理・調査研究・教育普及及環境等の整備拡充など

寄附金額 個人 一口 一万円 法人 一口 十万円 何口でも結構です。
所定の振り込み用紙で郵便局または銀行からお振り込み頂けます。
振込用紙をご希望の方は当館寄附係までご連絡ください。